

平成 18 年度
名古屋大学全学技術センター マウス生殖工学技術研修（第 2 回）
実施要項

<目的>

動物実験は、医学研究はもちろんバイオサイエンス研究における必要不可欠な手法であり、とくに近年では発生工学技術の進歩によりさまざまな遺伝子改変動物が作製され、研究に供されている。一方で、こうした貴重な動物の系統維持や感染症に対する問題は潜在的・慢性的に存在しており、その問題解決のために時間的・経済的に大きな負担を強いられているといった実状がある。このような問題を回避し適正な動物実験を実施するには、動物実験取扱者が遺伝学的・微生物学的に実験動物の品質を一定に保つための知識・技術を身に着けていることが要求される。

そこで本研修では、マウスの飼育管理の基礎から、遺伝子改変マウスの系統保存方法、病原性微生物の除去方法について講義・実習を行い、受講者にはマウス飼育管理に関する理解を深めるとともに生殖工学技術を習得してもらうことで、今後の教育・研究の発展がより円滑に図られることを目的とする。

<主催>

名古屋大学全学技術センター

<会場・期間>

名古屋大学大学院医学系研究科附属医学教育研究支援センター
実験動物部門（旧動物実験施設）

平成 19 年 2 月 7 日（水）～ 平成 19 年 2 月 9 日（金）

<研修対象者>

名古屋大学所属技術職員 3～5 名

（定員に余裕があれば、大学院生・若手教員も可能）

（学外の技術職員も希望があれば対象とするが、必要経費を徴収する）

<問い合わせ・申込み先>

名古屋大学大学院医学系研究科 附属医学教育研究支援センター 実験動物部門

担当者： 小木曾 昇

T E L： 052-744-2469

E-mail： ogiso@med.nagoya-u.ac.jp

U R L： <http://www.med.nagoya-u.ac.jp/sisetu/>

申込み期限：平成 19 年 1 月 29 日（月）

<研修課題・研修内容>

- ・ 研修課題
「マウス飼育管理および生殖工学技術の基礎に関する知識および技術の習得」
- ・ 研修内容
 - 1) 講義
 - ・ 動物飼育管理の基礎
 - ・ 生殖工学技術の概要
 - 2) 実習・デモンストレーション
 - ・ キャピラリーの作製（実習）
 - ・ 精子採取（実習）および凍結保存（デモンストレーションのみ）
 - ・ 未受精卵の採取（実習）
 - ・ 体外受精（実習）
 - ・ 卵管灌流による2細胞期卵の採取（デモンストレーションのみ）
 - ・ 2細胞期卵の凍結保存（実習）
 - ・ 偽妊娠受容雌作成のための雄の精管結紮手術（実習）
 - ・ 膣栓チェック（実習）
 - ・ 凍結卵の融解（実習）
 - ・ 2細胞期卵の卵管内移植（実習）
 - ・ 帝王切開（実習）
 - ・ 動物個体管理（動物の日常観察・ケージ交換・個体識別 等）

<研修日程（予定）>

	2/7(水)	2/8(木)	2/9(金)
9:00	講義	採精 採卵・体外受精	膣栓チェック
10:00			2細胞期卵の選別
11:00	キャピラリー作製		2細胞期卵の凍結保存・ および 融解
12:00	休憩	休憩	休憩
13:00	精子凍結保存・融解（デモ）	精管結紮♂作製	卵管内移植
14:00			
15:00	帝王切開 動物の観察	受精卵の選別	卵管灌流による 2細胞期卵の採取（デモ）
16:00		偽妊娠交配	
17:00		動物の観察	

平成 18 年度 名古屋大学全学技術センター

マウス生殖工学技術研修（第 2 回） 申込書

申込日 年 月 日

氏名	フリガナ		性別	男 ・ 女
所属				
職名	技術職員 ・ 教員 ・ 大学院生 ・ その他（ ）			
連絡先	Tel		E-mail	
所属 責任者	(職位)		(氏名)	
現在の 職務内容				
受講希望 理由				

申込み期限：平成 19 年 1 月 29 日（月）